



山形大学地域教育文化学部同窓会長、旧山形師範学校講堂保存活用実行委員会、男声合唱団「コール・マイゼン」会長。山形市立第四小学校校長を退任後、山形教育用品株式会社社長、山形大学教職大学院・東北文教大学客員教授、東部公民館長などを経て、現在に至る。

教員時代は多忙を極め、疑問を解き明かすことはできませんでしたが、地域に根ざした教育の重要性を感じ、バードへの探求心を心の片隅に秘めていました。退職後、ある機縁から山形のバードの足跡を辿るツアーリに参加しました。この経験が、私をバードと山形の歴史地理研究へと駆り立てました。調査を進める中、これからも、イザベラ・バードの精神を胸に、山形の魅力を多くの人々に伝え、この地域の発展に貢献していきたいと考えています。

山形県うまいものファインフードコンテストで優秀賞に輝きました!

この度、当店の末摘餅が、上記コンテストにて優秀賞に輝き、10月11日に表彰式が行われました。山形県産の食材を使ったうまいものが多数エントリーする中、県産紅花の若菜を練り込んだ県産米のお餅で、県産の梅の餡を包んだ県産食材尽くしのお菓子であることが認められ、受賞できたことはとても光栄なことです。今後も、さらに郷土に根付いた銘菓になるよう育てて参りますので、皆様のさらなるご愛顧を心よりお願い申上げます。



▶受賞者の皆さんとの記念撮影。上段左が戸田社長。

毎月18日は 戸田屋の日

毎月その日だけの限定お菓子や、ポイント2倍など、嬉しいイベント満載! ゼヒお見逃しなく!

Interview おかめふあんくらぶ

イザベラ・バードと共有する山形の歴史 「地域を学ぶこと」が郷土愛を育む原点となる

山形大学地域教育文化学部同窓会長 渋谷 光夫さん

大学時代の恩師から紹介されたイギリス人女性、イザベラ・バードの書籍『日本奥地紀行』に深く感銘を受けました。バードが見た明治初期の日本の鋭い観察眼と、生き生きとした描写に魅せられる一方、その記述について疑問も抱きました。

教員時代は多忙を極め、疑問を解き明かすことはできませんでしたが、地域に根ざした教育の重要性を感じ、バードへの探求心を心の片隅に秘めていました。

退職後、ある機縁から山形のバードの足跡を辿るツアーリに参加しました。この経験が、私をバードと山形の歴史地理研究へと駆り立てました。調査を進める中、これからも、イザベラ・バードの精神を胸に、山形の魅力を多くの人々に伝え、この地域の発展に貢献していきたいと考えています。

高校時代の末摘餅が、上記コンテストにて優秀賞に輝き、10月11日に表彰式が行われました。山形県産の食材を使ったうまいものが多数エントリーする中、県産紅花の若菜を練り込んだ県産米のお餅で、県産の梅の餡を包んだ県産食材尽くしのお菓子であることが認められ、受賞できたことはとても光栄なことです。今後も、さらに郷土に根付いた銘菓になるよう育てて参りますので、皆様のさらなるご愛顧を心よりお願い申上げます。

大学時代の末摘餅が、上記コンテストにて優秀賞に輝き、10月11日に表彰式が行われました。山形県産の食材を使ったうまいものが多数エントリーする中、県産紅花の若菜を練り込んだ県産米のお餅で、県産の梅の餡を包んだ県産食材尽くしのお菓子であることが認められ、受賞できたことはとても光栄なことです。今後も、さらに郷土に根付いた銘菓になるよう育てて参りますので、皆様のさらなるご愛顧を心よりお願い申上げます。

戸田屋のお客様におはなしをうかがいました。

・秋号・

おかげマークは、創業者のおばあちゃんの似顔絵です。戸田屋正道のイメージにピッタリなので、イメージキャラクターに採用しました。今ではすっかり戸田屋正道のブランドイメージになっています。

おかげ新聞

戸田屋正道

隠居日和

◎隠居／戸田正宏

熱い戦いであったオリンピック・パラリンピックも終わり、世の中だいぶ静かになりました。

日本はこれまでにない金メダルの数でしたが、金メダリストと銀メダリストでは一体どれくらいの実力差があるのでしよう。恐らく微差。「運も実力」と言うように運も大いに作用すると思います。

オリンピックに出る位ですのでアスリートは人の何倍ものトレーニングを積んでいると思いますが、実力差は殆どないと想います。

「金メダルを取る!」との意志が強い方に金メダルが転がり込むのではないかと、オリンピックを観戦して思うのです。

しかし金メダルと銀メダルとは受ける印象は全く違ってきます。

競馬の世界では鼻の差でも一着を逃せば優勝賞金は何倍も違いま

す。勝負の世界は微差は大差なものです。

でも、アスリートでもない平凡な私たちは他人との比較や競争では辛く苦しいものとなります。

激動の世の中、競争社会に打ち勝つことが出来る人は少数でしょ

う。

誰でも知っている「兎と亀」という寓話がありますが、継続があるのだそうです。負けたウサギが悔しくてもう一度駈け比べを申し込んだそうです。次はウサギが大差で勝ったことは言うまでもありません。お山のてっぺんで記念写真を撮ろうという事になり、1位

の旗を持ったウサギが得意げに映っています。ところが負けた亀もウサギの隣で二コニコしているのです。ウサギが不思議がり、負けたのにどうして二コニコしてい

るのだろうか。昨日一日を丁寧に

生きただろうか。昨日一日を丁寧に

は、「1回目の自分より、2回目の自分が早かったから」と嬉しい答えたそうです。

この話を聞いた時、「ライバルは自分」との自覚を持ちました。

でも、アスリートでもない平凡な私たちは他人との比較や競争ではなく、あくまで自分の成長を目的とする

他者との比較や競争でなく、生き方。既に体力に自信もなく、

肉体の成長は望めそうもありません。せんので、穏やかな心の成長を目指しています。

この話を聞いた時、「ライバルは自分」との自覚を持ちました。

でも、アスリートでもない平凡な私たちは他人との比較や競争ではなく、あくまで自分の成長を目的とする

他者との比較や競争でなく、生き方。既に体力に自信もなく、

肉体の成長は望めそうもありません。せんので、穏やかな心の成長を目指しています。